

きらり チームほおの木

<笑顔いっぱい 元気いっぱい 夢いっぱい>

令和2年4月18日(土)
文責 伊藤 博子

!

なんということでしょう。新型コロナウイルス感染症の拡大のため、予定していた教育活動をことごとく中止、延期と判断せざるを得ない状況です。とても悔しいです。1つの目標に向かって頑張ろうとしていた子どもたちの心を考えると、悔しくてたまりません。もちろん、子どもたちの命が一番大切です。重症化して亡くなってしまう方がいらっしやることを考えれば、危険を回避することが大事です。でもなぜ今、こんなつらい思いを子どもたちがしなければならぬのでしょうか。

運動会は、小学校の学校行事の中でも、とても大きな意義ある活動です。みんなで力を合わせ、友を応援し、最後まであきらめずに頑張るその体験は、次の教育活動につながっていくものです。しかし、今回は、児童の安全を第一に考え、校内で話し合い、苦渋の決断をいたしました。どうぞご理解ください。ただ、この事態が収まり、安心して活動できる状態になったら、体育の時間等を活用して、ミニ運動会のようなものを作りたいと考えております。1日も早く不安な状況がなくなりますように、1日も早く子どもたちが安全に伸び伸びと活動できる日が来ますように、と、毎日願っています。

今週のほおの木っ子

朝、喜多方市の図書館の前で子どもたちの様子を見てみると、ほほえましい場面に行くつも遭遇します。ある日、1年生の男の子が二人、仲良く手をつないで学校に向かっていました。仲がいいなあと見てみると、そのうちの一人が私のところに来て、

「ママに会いたい・・・。」

と、涙を浮かべて訴えてきました。どうしようかと思っていた時、もう一人の男の子が、

「大丈夫だよ。行くよ。」

と、泣きそうなこの手を引いて、学校に向かっていきました。

また、お兄さん、お姉さんが1年生の面倒を見ながら歩いています。そのまなざしが、とてもやさしく、仲のいい兄弟なんだなと感じます。

立場が人を育てる。小学校のこの時期は、特にそう思います。6年生は、お掃除の班長として、班のメンバーに指示をしたり、掃除の仕方を下級生に教えたりと、班をまとめています。チームほおの木のリーダーとしての自覚がしっかりできてきています。また、他学年も、3月から学年が1つ上になったただけなのに、心身ともにぐんと大きくなった気がします。

昨日は、交通教室を行いました。喜多方警察署の方2名にお願いをして、歩行や自転車の乗り方を指導していただきました。終了後、いろいろなお話をする中で、

「二小の子どもたちは素晴らしいですね。」

と、お褒めの言葉をいただきました。

「どんなどころで、そう感じられましたか？」

と、お聞きしたところ、1名の方が、

「1～2年生の担当だということで、体育館に向かったのですが、あまりにも静かだったので、誰もいないのではと思いました。しかし、扉を開けたら、誰一人話をせず、きちんと待っていたのでびっくりしました。低学年だと、普通、ざわざわするものですが、二小の子どもたちは違いますね。すごいと思いました。」

と、話されていました。また、もう1名の方も、

「先生の話をよく聞いて、すぐに、きちんと動くのが素晴らしいです。」

と、おっしゃっていました。すごいぞ、ほおの木っ子。これからも、よさをどんどん伸ばしてもっともっと大きくなりましょう。